

段落	文	頁	行	原文	神山訳	寺沢訳
		169	1 2	B. Extensives und intensives Quantum.	B. 外延的な数量と内包的な数量	B 外延的定量と内包的定量
			3 4	1. Unterschied derselben.	一、これらの区別	一 両者の区別
472	1		5 6	1. Das Quantum hat seine Bestimmtheit als Grenze in der <i>Anzahl</i> .	一、数量は、みずからの規定態を、【数値】のかたちをした限界として持っている。	一、定量は限界としてのその規定態を集合数のうちにもっている。
	2		6 7 8 9	Es ist ein in sich Discretus, ein Vieles, das begrenzt ist; dieses Viele hat, wie sich zeigt, nicht ein Seyn für sich, das verschieden wäre von seiner Grenze und sie ausser sich hätte.	数量は、みずからの内で分離したものであり、限界づけられている〈多〉である。これまでではっきりしたように、こうした〈多〉は、それだけで独立した存在を持っていない。このそれだけで独立した存在であるならば、それは、みずからの限界とは違うであろうし、みずからの外に限界を持つのだろうか。	定量は自己において離散的なものであり、限界づけられている多である。この多は、さきに示されたように、その限界から区別されていて限界を自己の外にもつような存在を独立にはもっていない。
	3		9 10 11 12 13 14	Denn eben innerhalb der Zahl macht die Vielheit die Bestimmtheit gegen die Einheit aus; das Eins als Einheit ist zwar an sich bestimmt als numerisches Eins, aber als Einheit ist es die unbestimmte, in sich unterschiedslose Continuität; Unterschied, Andersseyn enthält es durch die Vielheit.	というのも、こうだからである。すなわち、〈数〉の内部では、まさに、多態は、統一（単位）に対する規定態をなしており、統一である〈一つ〉は、数字で示す〈一つ〉〔数が一つの数字で示されていること〕としてそれ自体で規定されているが、統一であるのだから、みずからの内部で区別を欠いた無規定な連続であり、多態であることによって〈他であること〉である区別を含んでいるからである。	というわけは、数の内部ではまさに数多性が単位に対立する規定態をつくりなしているからである。単位としての一はたしかに数的一として本来的に規定されているが、しかし一は単位としては無規定的な・自己のうちに区別の欠けている連続性である。一が区別・他を含むのは数多性を通じてである。
	4		15 16 17	Sie enthält also das Moment der Grenze, der Negation in der Zahl selbst; der Unterschied an sich besteht daher in der Anzahl.	したがって、多態は、否定である限界のモメントを〈数〉それ自身のうちに含んでおり、したがって、〈それ自体の区別〉の実質は、数値にあることになる。	したがって数多性は数そのものにおける限界・否定の契機を含んでいる。だから区別自体は集合数のうちに成りたっている。
473	1		18 19 20	Das Quantum ist also ein Vielfaches, und diese Vielheit ist eins mit seiner Grenze; es ist als Grenze, als bestimmtes Quantum, ein Vielfaches an sich selbst.	したがって、数量は、倍数（多重なもの）である。そして、この多態は、その数量の限界と一体である。この数量は、限界として、すなわち規定された数量として、倍数それ自体それ自身である。	したがって定量は複多的なものであり、この数多性は定量の限界と一体になっている。定量は限界として・規定された定量として、複多的なものそれ自体である。
	2		21	So ist es <i>extensive Größe</i> .	数量は、こうして、【外延的な大きさ】である。	こうして定量は外延的な大きさである。
474	1		22 23 24	Die <i>extensive</i> Größe ist von der <i>continuirlichen</i> zu unterscheiden; es steht ihr direct nicht die discrete, sondern die <i>intensive</i> Größe gegenüber.	【外延的な】大きさは、【連続した】大きさと区別されなければならない。外延的な大きさに対して	外延的な大きさは連続的な大きさから区別されなければならない。外延的な大きさに直接的に対立しているのは、離散的な

				向するのは、直接的には分離した大きさではなく、むしろ【内包的な】大きさである。	大きさではなくて、内包的な大きさである。
	2	170	24 Die extensive Größe ist die aussereinanderseyende in ihrer Bestimmtheit, oder insofern die Grenze ein Vielfaches ist; 25 sie hat das Moment der Continuität, insofern an ihr und 26 auch in ihrer Grenze, als dieses Viele ein continuirliches 27 und die Grenze als Negation an dieser Gleichheit der 1 Vielen erscheint. 2 3	外延的な大きさは、みずからの規定態では——い いかえれば限界が、ある倍数であるかぎりは—— たがい外にある大きさである。外延的な大きさは、 連続のモメントを持っているが、それは、みず からのもとに、またみずからの限界において も、このような〈多〉として連続するものが現象 し、また〈多〉のこうした同等態のもとで限界が 否定として現象するかぎりでのことである。	外延的な大きさは、その規定態においては・換言 すれば限界が複多的なものである限りは、相互 外在的な大きさである。〔外延的な大きさの〕 この多が連続的なものであり・否定としての 限界が多くのもこの相等性のもとに現われる その限り、外延的な大きさは連続性の契機を それのもとにもその限界のなかにもっている。
	3		3 Die continuirliche Größe aber ist die 4 sich fortsetzende Quantität ohne Rücksicht auf eine Grenze, 5 oder insofern sie mit einer Grenze vorgestellt wird, fällt 6 diese ausser jener Continuität und ist Begrenzung über- 7 haupt, ohne daß die Discretion an ihr ge- 8 setzt sey.	しかし、連続する大きさは、限界をかまわずに、 継続する量である。あるいは、連続する大きさを 限界とともに表象するかぎりでは、この限界は、 そうした連続の外にあり、【分離をみずからの もとに設定しないにおいて】、一般に限界づける ことである。	だが連続的な大きさは限界を顧慮せず に自己を継続させる量である。換言すれば、 連続的な大きさが限界を伴って表象される 限りでは、限界は、かの連続性の外にあり、 離散性がそれのもとに〔顕在的に〕定 立されていない限界づけ一般である。
	4		8 -- Die continuirliche Größe ist noch nicht 9 die wahrhaft an sich bestimmte Größe, weil sie des vielen 10 Eins, worin das an-sich-Bestimmtseyn liegt, entbehrt; 11 ihre Grenze ist daher ausser ihr, und noch nicht Zahl.	——連続する大きさは、まだ真にそれ自体で規定 された大きさなのではない。なぜなら、連続する 大きさは、〈それ自体で規定されていること〉が ある多くの〈一つ〉を欠いているからである。だ から、連続する大きさの限界は、連続する大き さの外にあり、まだ数ではない。	——連続的な大きさはまだ真に本来的に 規定された大きさではない、というのは本 来的に規定された存在がそのなかに存す る多くの一が連続的な大きさには欠けて いるからである。だから連続的な大きさの 限界はそれの外にあり、それはまだ数では ない。
	5		11 -- Eben so ist die discrete Größe unmittelbar in ihrer Be- 12 stimmung nur unterschiedenes Vieles überhaupt, das, 13 insofern es als solches eine Grenze haben sollte, nur eine 14 Menge, d. h. ein unbestimmt und äusserlich begrenztes 15 wäre. 16	——同様に、分離した大きさも、みずからの規定 で直接的には、ただ一般的に、区別された〈多〉 でしかない。この区別された〈多〉は、そのも として限界を持つべきあるいじょうは、〈多数〉 にすぎないだろう。すなわち、無規定にしかも 外面的に限界づけられたものであろう。	——同様に離散的な大きさは直接的にそ の規定においては区別された多一般にす ぎず、それ自身が限界をもつべきだとされ る限り、集合に・すなわち無規定的かつ外 的に限界づけられたものにすぎないであ らう。
	6		16 -- Insofern aber sowohl continuirliche als discre- 17 te Größe <i>Quantum</i> sind, sind sie nach dessen wahr- 18 hafter Bestimmung Zahl, und dieses ist zunächst als <i>ex-</i> 19 <i>tensives Quantum</i> , -- die Bestimmtheit, die wesent- 20 lich als <i>Anzahl</i> , jedoch als Anzahl einer und derselben 21 Einheit ist.	——しかし、連続した大きさも分離した大きさも 【数量】であるかぎり、これらは、その真の規定 からすると〈数〉である。そして、この数量は、 さしあたり、【外延的な】数量である。——本質 的には〈【数値】〉としてある規定態であるもの の、一つの同じ統一（単位）の数値としてある規 定態である。	——だが連続的な大きさも離散的な大き さも定量である限り、その真の規定にした がえばそれらは数であり、そして数はまず さしあたり外延的な定量としてある—— 本質的には集合数として、とはいえ同一の 単位の集合数としてあるところの規定態 である。

475	1	22 23	2. Das extensive Quantum ist die in sich vielfache Grenze.	二、外延的な数量は、みずからの内で何倍かされた（多重の）限界である。	二、外延的定量は自己において複多的な限界である。
	2	23 24 25	Es hat das unterschiedene Andere an ihm selbst, und deswegen ist die Zahl das vollkommen an sich selbst bestimmte.	外延的な数量は、みずから自身のもとに区別された〈他のもの〉を具えており、それゆえに、〈数〉は、完全にそれ自体それ自身で規定されたものである。	それは区別された他者をそれ自身のもとに〔顕在的に〕もっており、そしてこのゆえに数は完全に自己本来的に規定された定量である。
	3	25 26 27 28 29 30	Die Bestimmtheit, wie groß etwas ist, durch die Zahl, bedarf nicht des Unterschiedes von etwas Anderem Großem, so daß zur Bestimmtheit dieses Großen es selbst und ein Anderes Großes gehörte; es ist an-sich-bestimmte, und dadurch gleichgültige, einfach auf sich bezogene Grenze.	〈なにものかがどれだけ大きいのか〉という、〈数〉による規定態は、なにか〈他のもの〉の大きさとの区別を必要としない。すなわち、こうした大きさの規定態に、大きさそれ自身が必要であるとか、〈他のもの〉の大きさが必要であるとかいった区別である。この大きさは、それ自体で規定された限界であり、そしてこのことによって無関心で単純にみずからに關係づけられた限界である。	或るものがどれほど大きいかの数による規定態はなにか他の大きさからの区別を必要とせず、したがってこの〔与えられた〕大きさを規定するのにそれ自身ともうひとつ別の大きさを必要としない。それ〔大きさの規定態〕は本来的に規定された・そしてこのことによって〔他者に〕無関心的な・自己へと単一に關係づけられた限界である。
	4	30 31 32 33 34 171 1	Das Viele der Grenze aber ist wie das Viele überhaupt, nicht ein in sich ungleiches, sondern ein continuirliches; jedes der Vielen ist was das andere ist; es als vieles aussereinanderseyendes, oder discretas macht daher die Bestimmtheit als solche nicht aus.	しかし、限界が〈多〉であることは、一般に〈多〉がそうであるように、みずからの内で不等な〈多〉ではなく、むしろ連続した〈多〉である。〈多〉のそれぞれは、他の〈多〉のものなんたるかであり、それゆえ、たがいに外にある多くのものである〈多〉のそれぞれ、つまり分離したものである〈多〉のそれぞれは、規定態そのものをなしていないのである。	だが多一般と同様に、限界の多は自己内で不等なものではなく、連続的なものである。多くのもののそれぞれは他のものがあるところのものである。だから多くの相互外在的なもの・ないしは離散的なものとしての多は規定態そのものをつくりなさない。
	5	1 2	Diß Viele fällt also für sich selbst in seine Continuität zusammen und wird einfache Einheit.	したがって、こうした〈多〉は、みずからの連続で合流し、単純な統一となる。	したがってこの多はそれ自身その連続性へと合一し、単一な統一になる。
	6	2 3 4 5	-- Das Viele war jedoch hier nicht überhaupt Vieles für sich, sondern die Bestimmung des Vielen, Anzahl gegen die Einheit.	――とはいえ、〈多〉は、この場では、一般にそれだけで独立した〈多〉ではなく、むしろ、その〈多〉の規定は、単位（統一）に対する数値であった。	――けれども多はここでは一般に自立的に多であったのではなく、多の規定は単位に対する集合数であった。
	7	5 6 7	Allein die Zahl ist Eins der Einheit und der Anzahl, oder die aus der Verschiedenheit dieser Bestimmungen in sich zurückgekehrte Einheit.	しかしながら、〈数〉は、単位と数値が一体であることであり、正確に言えば、こうした諸規定の違いからみずからに還帰した統一（単位）なのである。	しかし数は単位と集合数との一〔一体になったもの〕であり、換言すればこれら両規定の差異態から自己へと還帰した統一である。
	8	7 8 9 10	Die Anzahl ist darin nur Moment, oder ist aufgehoben; sie macht also nicht die Bestimmtheit der Zahl aus, als eine Menge von numerischen Eins; sondern	この統一（単位）においては、数値は、たんにモメントであって、いいかえれば廃棄されている。【したがって、数値は、数字で示す〈一つ〉の多数として、〈数〉の規定態をなさない】。むしろ	集合数はこの統一のなかでは契機にすぎず、換言すれば揚棄されている。したがって集合数は、数的一の集合として、数の規定態をつくりなしているのではなく、これら

		11 diese als gleichgültige, sich Äusserliche sind im Zurückge- 12 kehrtseyn der Zahl in sich, aufgehoben; die Äusserlich- 13 keit, welche die Eins der Vielheit ausmachte, verschwin- 14 det in der Beziehung der Zahl auf sich selbst.	ろ、こうした多数の——無関心なものとしての— —みずからに外面的なものは、〈数〉がみずから に還帰していることで、廃棄されている。〈多 態〉の〈一つ〉をなしている外面態は、〈数〉が みずから自身に関係するなかで消失している。	の数的一は無関心的な・自己に外的なもの として、数の自己内還帰存在においては揚 棄されている。数多性の一をつくりなして いた外面性は数の自己自身への関係のな かで消失しているのである。
476	1	15 Das Quantum, das als extensives seine Bestimm- 16 heit an der sich selbst äusserlichen Anzahl hatte, geht also 17 in <i>einfache Bestimmtheit</i> über.	したがって、数量は、外延的なものとして、み ずからの規定態を、みずから自身に外面的な数値 のもとに具えていたが、こうした数量は、【単純 な規定態】に移行する。	外延的なものとしてその規定態を自己 自身に外的な集合数のもとにもっていた 定量は、したがって単一な規定態へと移行 してゆく。
	2	17 In dieser einfa- 18 chen Bestimmung der Grenze ist es <i>intensive Größe</i> ; 19 und die Grenze oder Bestimmtheit als solche, die vorher 20 als Anzahl war, ist ein einfaches, <i>der Grad</i> .	限界がもつこうした単純な規定のかたちでは、そ うした数量は、【内包的な大きさ】である。そし て、以前は数値としてあった限界ないし規定態そ のものは、単純なものであり、【度数】である。	限界のこの単一な規定態においては、定量 は内包的な大きさである。そして以前には 集合数であった限界ないしは規定態その ものは単一なもの・すなわち度である。
477	1	21 Der Grad ist also bestimmte Größe, Quantum, 22 aber nicht zugleich Menge, oder Mehreres innerhalb sei- 23 ner selbst; er ist nur eine <i>Mehrheit</i> ; die <i>Mehrheit</i> 24 ist das Mehrere in die einfache Bestimmung zusammen- 25 genommen.	したがって、度数は、規定された（特定の） 〈大きさ〉であり、数量であるが、同時に多数で はなく、詳しくいえばみずから自身の内部にある 複数ではない。度数は、一つの〈多【態】〉にす ぎない。〈多【態】〉は、単純な規定にまとめら れた複数である。	したがって度は規定された大きさすな わち定量であるが、しかし同時に集合では なく、またそれ自身の内部での多重のもの でもない。度は多重性にすぎない。多重性 とは単一な規定のうちに集約された多重 のものである。
	2	25 Seine Bestimmtheit wird zwar durch eine 26 <i>Zahl</i> ausgedrückt, als dem an-sich-Bestimmtseyn des 27 Quantums, aber ist nicht eine <i>Anzahl</i> , sondern ein- 28 fach, nur Ein Grad.	度数の規定は、たしかに一つの〈【数】〉によっ て表現されるのだが、数量の〈それ自体で規定さ れていること〉にとってあるものとしては、一つ の【数値】ではなくて、むしろ単純であり、〈一 つの〉度数にすぎない。	度の規定態はたしかに定量の本来的に規 定された存在としての数によって表現さ れはするが、しかしそれは集合数ではな く、単一であり、ひとつの度にすぎない。
	3	28 Wenn von 10, 20 Graden ge- 29 sprochen wird, so ist das Quantum, das so viele Gra- 30 de hat, nicht die Anzahl und Summe derselben; so wäre 31 es ein extensives; sondern es ist nur Einer, der zehente, 32 zwanzigste Grad.	《一〇度数》とか《二〇度数》とか話されるな ら、そのように多くの度数をもつ数量は、数値で も、数値の和でもない。もしそうであれば、その 数量は、外延的な数量であろう。むしろ、その数 量は、《一〇番目の度数》とか《二〇番目の度 数》とかいった〈一つの度数〉である。	十度とか二十度について語られる場合に、 それだけの度をもつ定量とはそれだけの 度の集合数とか総計とかではない。もしも そうならば、それは外延的なものであるだ ろう。そうではなくて、それは十番目の度・ 二十番目の度というひとつのものにすぎ ない。
	4	32 Er enthält dieselbe Bestimmtheit, 33 welche in der Anzahl zehen, zwanzig liegt, aber er ent- 1 hält sie nicht als Mehrere, sondern ist die Zahl als auf- 2 gehobene Anzahl, als einfache Bestimmtheit.	度数は、《一〇》とか《二〇》とかいった数値に あるのと同じ規定態を含むのだが、この規定態を 複数として含むのではない。むしろ、度数は、廃 棄された数値である数、単純な規定態である数な のである。	十とか二十とかいう集合数のうちにある のと同じ規定態を度は含んではいるが、 しかし多重的なものとしてそれを含んで いるのではなく、度は揚棄された集合数・ 単一な規定態としての数である。

478	1	3 4 5	Aber diese Form der Beziehung auf sich, welche das Quantum erreicht hat, ist zugleich das <i>Aeusserlichwerden desselben</i> .	しかし、みずからへの関係のこうした形式は、数量が達成したものだが、同時に【数量が外面的になること】でもある。	けれども定量が到達している自己への関係というこの形式は同時に定量が外的なものになる運動である。
	2	5 6 7 8 9 10	Die Zahl hat als extensives Quantum die Bestimmtheit an sich selbst nur in der numerischen Vielheit; aber diese, als Vieles überhaupt, fällt in die Ununterschiedenheit zusammen, und als sich äusserliches Vieles hebt es sich auf in dem Eins der Zahl, in der Beziehung derselben auf sich selbst.	〈数〉は、外延的な数量として、みずから自身のもとに規定態をもつが、それはただ数字で示す多態のかたちでしかない。しかし、数字の多態は、一般に〈多〉としてあるから、合流して無区別態になるし、〈多〉は、みずからに外面的な〈多〉としては、〈数〉の〈一つ〉のかたちで、すなわち〈数〉がみずから自身に関係するかたちで、廃棄される。	数は外延的定量として規定態それ自身を数的数多性のうちにのみもっている。だが数的数多性は、多一般として、無区別態へと合一し、また自己に外的な多としてそれは数の一なかで・数の自己自身への関係のなかで自己を揚棄する。
	3	10 11	Das intensive Quantum bleibt bestimmtes Quantum.	内包的な数量は、規定された数量にとどまる。	内包的定量は規定された定量にとどまる。
	4	11 12 13	Die Bestimmtheit aber des Quantums ist sich äusserliches, gleichgültiges Andersseyn.	しかし、数量の規定態は、みずからにとって外面的で無関心な〈他であること〉である。	だが定量の規定態は自己に外的な・無関心的な他在である。
	5	13 14 15 16	Der <i>Grad</i> , der in sich selbst einfach ist, und diß <i>äusserliche Andersseyn</i> nicht mehr in ihm hat, hat es <i>ausser ihm</i> , und bezieht sich darauf als auf seine Bestimmtheit.	【度数】は、みずから自身のうちで単純で、そして【外面的な〈他であること〉】をもはや【みずからの内に持た】ないので、【みずからの外に】こうした〈他であること〉を持ち、こうした〈他であること〉に——これがみずからの規定態だと——関係する。	自己自身において単一であり、またこの外的他在をもはやそのなかにもたない度は、この他在をその外にもち、自分の規定態としてのこの他在へと関係している。
	6	16 17 18 19	Es ist also eine äusserliche Vielheit; aber so daß dieses Aeusserliche zugleich die einfache Grenze, die Bestimmtheit, welche er für sich ist, ausmacht.	したがって、外面的な〈他であること〉は、外面的な多態であるが、であるがゆえに、こうした外面的なものは、同時に、単純な限界をなし、度数がそれだけで独立している規定態をなすのである。	それ〔度の規定態〕はしたがって外的な数多性である。だがその結果、この外的なものが同時に単一な限界を、度そ自身ある規定態をつくりなすのである。
	7	19 20 21	Die Anzahl als solche bleibt also die Bestimmtheit der Zahl, aber ausser der Zahl, deren Bestimmtheit sie ist.	だから、数値そのものは、〈数〉の規定態にとどまるが、数値が規定態となる〈数〉の外にもとどまる。	したがって集合数そのものが相変わらず数の規定態ではあるが、しかし集合数がその規定態であるゆえんの数の外でそうなのである。
	8	21 22 23 24	Daß somit die Anzahl, insofern sie sich innerhalb der Zahl im extensiven Quantum befinden sollte, darin aufhob, diß bestimmt sich näher so, daß sie ausserhalb derselben gesetzt worden ist.	このことによって、数値は、〈数〉の内部にあって外延的な数量のかたちで見出されて、この数量のかたちで廃棄されているかぎり、このことは、次のように詳細に規定される。すなわち、数値は、〈数〉の外部に設定されているのである。	だからして、外延的定量においては集合数は数の内部に存すべきであったその限りで、集合数が数において揚棄されたということは、より詳しく規定すれば、集合数が数の外で定立されているということなのである。

	9		24 25 26 27 28	Indem die Zahl Eins, in sich reflectirte Beziehung auf sich selbst ist, so schließt sie damit die Gleichgültigkeit und Aeusserlichkeit der Anzahl aus sich aus, und ist Beziehung auf sich als Beziehung durch sich selbst auf ein Aeusserliches.	〈一つ〉という〈数〉は、みずから自身へのみずからに折れ返った関係にあることによって、数値の無関心態でありその外面態でもあるものをみずから排除する。そして、この〈一つ〉という〈数〉は、みずから自身によって〈外面的なもの〉に関係するものとして、みずからへの関係なのである。	数は一・すなわち自己内還帰した自己自身への関係であるから、このことによって数は集合数の無関心性と外面性とを自己から排除するのであり、こうして数が自己への関係であるのは、自己自身を通じての外的なものへの関係としてである。
479	1		29 30	Hierin hat das Quantum die seinem Begriffe gemäße Realität.	数量は、この点に、みずからの概念に適合した実在態を持つ。	ここで定量はその概念にかなった実在性をもつ。
	2		30	Das Quantum ist bestimmte Quantität.	数量は、規定された（特定の）量である。	定量は規定された量である。
	3		31 32 33	Die Bestimmtheit der Quantität ist gleichgültige Bestimmtheit, die nicht ist als auf anderes bezogen; sie hat damit das Andersseyn an ihr selbst, und ist in sich selbst äusserlich.	量の規定態は、他のものに関係づけられたものではない無関心な規定態である。このことによって、量は、みずから自身のもとに〈他であること〉を持ち、みずから自身において外面的である。	量の規定態は、他者へと関係づけられたものとしてあるのではない無関心的な規定態である。これとともにそれは他在をそれ自身のもとにもっており、したがって自己のうちで外的である。
	4	173	1 2 3 4 5 6 7	So ist sie Anzahl, das bestimmte Unterscheidenseyn in sich selbst; die Anzahl macht eine bestimmte Größe aus, und diß Bestimmtheitsseyn, -- ob es drey, oder vier u. s. f. sind, fällt ganz innerhalb die Zahl selbst; es bedarf dazu nicht einer Vergleichung mit andern, noch ist es ein qualitativer Unterschied von Andern.	そうであるから、この量は、数値であり、みずから自身において規定されて〈区別されていること〉である。数値は、規定された〈大きさ〉をなしている。そして、こうした〈規定されていること〉——それが《三》であるのか《四》であるのかなどということ——は、まったく〈数〉自身の内部に入っている。このためには、その〈規定されていること〉が他の〈規定されていること〉と比較することを必要としないし、その〈規定されていること〉は、他の〈規定されていること〉との質的な区別でもない。	こうしてそれは集合数であり、規定された・自己自身のうちで区別された存在である。集合数が規定された大きさをつくりなし、こうしてこの規定されていること——すなわち、三であるかまたは四等々であるかということ——は、まったく数そのものの内部に属する。規定されていることのためには他の数との比較を必要とせず、またそのことは他者からの質的区別でもない。
	5		7 8 9	Da diese Aeusserlichkeit innerliche, sich auf sich beziehende Aeusserlichkeit ist, so ist sie die Aeusserlichkeit ihrer selbst.	こうした外面態は、みずからをみずからに関係づける内面的な外面態であるから、数値は、みずから自身の外面態である。	この外面性は自己へと関係する内面的な外面性であるから、それはそれ自身の外面性である。
	6		9 10 11 12 13	Sie ist also intensive Größe, einfache Bestimmtheit, als Beziehung auf sich selbst, welche eben so sehr ihre Bestimmtheit in Aeusserlichem hat; die Bestimmtheit, die an ihr selbst die sich äusserliche Bestimmtheit ist.	したがって、数値は、内包的な〈大きさ〉であり、みずから自身への関係として単純な規定態である。この関係は、同じくらい、外面的なものにおいてみずからの規定態をもっている。すなわち、みずからに外面的な規定態であることがみずから自身のもとにある規定態が数値である。	したがってこの外面性は内包的な大きさであり、自己自身への関係としての単一な規定態である、そしてこの単一な規定態はまたまさにその規定態を外的なものうちにもっている。すなわち、自己自身のもとで自己に外的な規定態であるところの規定態である。

480	1	14 15 16 17 18	Sonach ist also der Grad einfache Größenbestimmtheit, unter einer Mehrheit von Intensitäten, die verschieden, aber in wesentlicher Beziehung auf einander sind, so daß jede in dieser Continuität mit den andern ihre Bestimmtheit hat.	だから、以上のことから、度数は、もろもろの内包態が優勢となったもとの単純な〈大きさの規定態〉である。これらの内包態は、違っているが、たがいに本質的な関係のうちにあるので、それぞれの内包態が、他の内包態とのこのような連続のかたちでみずからの規定態を持っているのである。	したがって度はもろもろの強度の多重性のあいだでの単一な大きさの規定態である。このもろもろの強度は〔相互に〕ことになっているが、しかし相互に本質的な関係のうちであり、したがってそれぞれの強度は他の強度とのこの連続性のうちにその規定態をもっている。
	2	18 19 20 21 22	Diese Beziehung des Grades durch sich selbst auf sein Anderes, macht das Auf- und Absteigen der Scale der Grade zu einem stätigen Fortgang, einem Fliessen, das eine ununterbrochene, untheilbare Veränderung ist.	度数がみずから自身を介してみずからの〈他のもの〉とこのように関係することは、度数の目盛（スケール）を上昇させたり下降させたりすることを、切れ目なく続く進行にし、中断されず区分されない変化という流れにする。	〔それぞれの〕度の自己自身を通じてのその他者へのこの関係が、と切れていない前進・すなわち中断されておらず分割不可能な変化である流れに対しての度の尺度の上昇および下降をなすのである。
	3	22 23 24 25	Jedes der Mehrern, die darin unterschieden werden, wird damit nicht getrennt von den Andern, sondern es hat sein Bestimmtheitsseyn nur in diesen Andern.	そのことにより、この進行や流れのなかで区別されるいずれの複数も、もろもろの〈他の複数〉と切り離されない。むしろ、いずれの超過も、みずからの〈規定されたあり方〉をただこれらの〈他の超過〉にのみ持っている。	〔上述の〕流れのなかで区別されている多重のものそれぞれは、区別されていると共に他者から分離されておらず、その規定された存在をこの他者のうちにのみもっている。
	4	25 26 27 28 29 30	Als sich auf sich beziehende Größebestimmung ist jeder der Grade gleichgültig gegen die andern; aber er ist eben so sehr an sich auf diese Aeusserlichkeit bezogen, und hat darin seine Bestimmtheit; seine Beziehung auf sich ist also eben so sehr die nicht gleichgültige Beziehung auf das Aeusserliche.	それぞれの度数は、みずからをみずからに関係づける〈大きさの規定〉としては、もろもろの〈他の度数〉に対して無関心であるが、それ自体では同じ程度にこうした外面態に関係しており、また、この外面態にみずからの規定態を持っている。したがって、それぞれの度数がみずからに関係することは、同じ程度に、外面的なものに無関心ではない関係である。	自己へと関係する大きさの規定として度のおのおのは他の度に対して無関心的である。だがそれはまた同じく本来的にこの外面性へと関係づけられており、この外面性のなかにその規定態をもっている。したがっておのおのの度の自己への関係はまた同じく外的なものへの無関心的でない関係である。
	5	30 31 32 33 34 35	Das Aeusserliche ist in der Einfachheit des Grades aufgehoben; aber es ist eben so sehr auch als äusserliches ausser ihm aufgehoben; denn es ist in wesentlicher Beziehung auf die einfache Bestimmtheit, also derselben eben so sehr nicht äusserlich.	この外面的なものは、度数の単純態で廃棄されているが、外面的であるのと同じ程度にまた外面的なもの外で廃棄されている。というのも、この外面的なものは、単純な規定態への本質的な関係のうちにある、したがってこの単純な規定態にとっては同じ程度に外面的ではないからである。	外的なものは度の単一性のなかで揚棄されているが、しかしまた同じく外的なものとしてその外で揚棄されている。というのは、外的なものは単一な規定態への本質的な関係のうちであり、したがってこの規定態にとってまた同じく外的でないからである。